

## 防府リハビリテーション病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも対象者様に不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	高齢者の肺炎発症リスク因子の検討		
② 実施予定期間	2020年9月1日～2025年3月31日		
③ 対象者	以下の対象期間中に防府リハビリテーション病院に入院された方または特別養護老人ホーム防府あかり園、グループホーム防府あかり園、防府温泉ホーム、介護老人保健施設防府幸楽苑のいずれかに入居され、防府リハビリテーション病院に通院または往診を受けられた65歳以上の方		
④ 対象期間	2014年1月1日～2020年8月31日		
⑤ 研究機関の名称	別添参照		
⑥ 対象診療科	呼吸器・健康長寿学講座		
⑦ 研究責任者	氏名	角川智之	所属 呼吸器・健康長寿学講座
⑧ 使用する情報等	①研究対象者背景（性別、生年月、年齢、身長、体重、現病歴、既往歴・合併症、介護保険認定の有無とその内容、等） ②肺炎発症の有無とその内容 ③医療機関への入院の有無、原因疾患、転帰 ④経静脈栄養の有無と移行した日時 ⑤転帰 ⑥肺炎を発症した場合は、肺炎診療に要した医療コスト		
⑨ 研究の概要	日本では、戦後5%未満であった高齢化率は瞬く間に増加し、平成25年には65歳以上の人口が3,190万人（総人口の25%）、75歳以上の人口が1,560万人（総人口の12%）を超えました。高齢者人口が21%を超えた社会を超高齢社会と呼びますが、日本の高齢化は今後も伸展し、2060年には40%に達すると推定されています。人類がこれまでに経験したことのないような超高齢社会を迎える日本において、肺炎の予防策を策定することは喫緊の課題です。しかし、これまでに肺炎の「診断」および「治療」については活発な研究がなされてきたものの、肺炎の「予防」については学問としてほとんど注目されてきませんでした。また、肺炎の予防策を考える上では、どのような特性を持った高齢者が肺炎を発症しやすいのかについて明らかにする必要がありますが、これに関しても未だ十分に明らかにされていません。そこで、本研究では、防府リハビリテーション病院に入院または通院された方、または往診を受けられていた方のカルテ情報をレトロスペクティブに解析し、肺炎発症リスク因子を明らかにするこ		

	とを目的としています。なお、本研究の実施にあたり、匿名化された情報が、山口大学に提供されて、山口大学の呼吸器・健康長寿学講座および呼吸器感染症内科で解析が行われます。			
⑩ 倫理審査	倫理審査委員会承認日	2020年 8月 26日		
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。			
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。			
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。			
⑭ 知的財産権	研究グループに帰属します。			
⑮ 研究の資金源	山口大学医学部呼吸器・健康長寿学講座の奨学寄附金を用います。			
⑯ 利益相反	ありません。			
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	山口大学医学部附属病院 呼吸器・健康長寿学講座 担当者：角川智之			
	電話	0836-22-2196	FAX	0836-22-2195

別添

研究代表者

角川 智之 山口大学 呼吸器・健康長寿学講座

研究参加施設と研究責任者

角川 智之 山口大学 呼吸器・健康長寿学講座

角川 智之 防府リハビリテーション病院

松永 和人 山口大学医学部附属病院